

出歩ける内は写真三昧。その後は珈琲でも嗜みながら、
現役時代に見逃した映画をアマプラかNetflixで漁りましょうか

湯河原〈ゆうゆうの里〉 榊原裕二様(70歳) 令和3年11月 一人入居

定年前に心配した「喪失感」
は杞憂に。やり残したことがある

大学までは大阪、その大半を豊中市で過ごしました。中学生の頃には、前の大阪万博が開催されていました。会場が豊中の自宅から近くて何度も見学に行きましたね。理系の大学に進み、修士課程終了後は、東京にある公的セクターで

仕事をしておりました。湯河原に来る前は、岐阜大学でお世話になり、この〈ゆうゆうの里〉に移住後も二年ほど公益財団の役員を務め、昨年の6月末に退職致しました。

現役時代は仕事で忙殺される毎日でしたが、仕事以外ではロードバイクに乗り佐渡島一周、琵琶湖一周など、各地を17年間で12・3万キロほど踏破しました。し

かし、流石にいつまでも走れるものではないなと解っていましたので、体力に合わせて次は何をやるか模索するようになりました。そうして10年前の定年退職を迎えたのですが、「喪失感に苛まれるのではないか」との事前の心配も杞憂に終わり、逆に、完全燃焼していなかったのか、まだやり残していることがあるのではないかと思うようになりました。



思い描いた第二の人生のプラットフォーム。早期入居が実現

両親は別の老人ホームに入居しており、15年間様子を見て来ましたが、ホームの大体のイメージは有りました。「第二の人生のプラットフォーム」とも言うべきものかと。両親からは、老人ホームの長所は「生活が楽になる」、「自由時間が持てる」、「何か不便なことが起きた時に助けがある」、「医師がそばにいる安心感ある」と、短所は「人間関係が大変」とも聞いており、老人ホームの選択に違和感はありませんでした。

ある日、次男家族と食事をしてると、私の所有するマンションの売却が話題に。不動産を扱い、精通している次男は「売るタイミングは悪くない」と言うので、そ



第73回二科会写真部 公募展入選作品『華麗に』

の場で売却を即決。すぐに希望価格で契約が成立しました。入居年齢は、両親のホームのように70才とばかり思っていたので、70才迄のあと3年足らずをどうするかが問題になりました。後から施設によって入居年齢が異なることを知り、65才で入居が可能な施設を探して、湯河原へ「ゆうゆうの里」に巡り合いました。おかげで66歳の早期入居が実現しました。ですから一番大きな決め手は入居年齢でした。写真サークルがあること、職員の定着率の高さも高評価でした。

自由時間が増えました。やりたかった写真も

入居して長所の一つ、自由時間が増えたことは間違いありません。岐阜に居た頃に写真を始めようと

望遠レンズを買ったのですが、コロナでイベントが全て中止になり、近隣の野鳥を撮影していません。入居して、写真の勉強をすることから始めています。これまでに出来なかつ

た地域社会との接点を持ちたいと今は、湯河原写真連盟の活動と湯河原町観光ボランティアの活動をしています。外に出て行ける間は、できるだけ撮影に出かけようと思っています。昨年は、「湯河原の湯かけ祭り」の写真で、初めて神奈川二科に入選し、今年は二科本展に入選しました。写真は非日常性を撮るもの、時間を止めるとどう見えるかということに興味を持って取り組んでいます。

思いもよらなかった「珈琲サロン」の立ち上げ、集う人達の笑顔が嬉しい

（月一回、談話室を使って主催している「珈琲サロン」が好評ですね）。ありがとうございます。自宅で珈琲を焙煎し始めたのは5年ほど前からです。香り高い珈琲を求めて調べると、大事なものは焙煎後のフレッシュな豆を使うことです。それで香り高く豆の個性も際だった珈琲を楽しむことが出来ます。そして自宅で焙煎できることも知りました。珈琲豆の焙煎には220度以上の温度が必要になります。以前はガスコンロと片手鍋で焙煎していたのですが、入居してガスコンロが使えなくなり電気式の焙煎機を購入しました。焙煎機のおかげで自己消費量以上のコーヒー豆の焙煎が出来るよう

になりました。

最初は、入居者に「豆、要りませんか？」と聞いてみたのですが、これが余り芳しくない。そのうちに「豆じゃなくて、珈琲を振る舞うならいけるんじゃないの」という入居者の意見があり、恐る恐る始めたのが「珈琲サロン」です。おかげで今では入居者だけでなく、町の写真連盟や観光ボランティアの方なども来られて、30名位が交流を楽しんでいます。

「コーヒールンバ」ではありませんが、コーヒールンバは人を幸せにする飲み物です。少しでも多くの人に来ていただければと思っております。私は時間があればお話ししますが、だいたいは黙々と珈琲を淹れ続けています。



「珈琲サロン」で珈琲を淹れる榊原様